

令和3年度第1回岡崎市総合教育会議会議録

日 時 令和3年8月10日（火） 午後4時

場 所 岡崎市役所東庁舎2階大会議室

出席者

| | |
|-------|-------|
| 市 長 | 中根 康浩 |
| 教育委員会 | 安藤教育長 |
| | 岡田委員 |
| | 福應委員 |
| | 上原委員 |
| | 小出委員 |

議 題

- 1 スクールソーシャルワーカー配置拡充による支援体制の充実について

報 告

- 1 30人学級の実施検討について

● 開会

中根市長よりはじめのあいさつ

● 議題1 スクールソーシャルワーカー配置拡充による支援体制の充実について

— 資料1に基づき説明（山本教育監） —

【質疑・意見等】

・ 福應委員

スクールソーシャルワーカーは導入から3年目となり、年度ごとに成果を収めている。教員の得意分野は生徒指導だが、教員だけでは難しい事案もありスクールソーシャルワーカーの必要性を感じている。スクールソーシャルワーカーにもそれぞれ得意分野があると思うが、そういった面でのこれまでの成果や課題はあるか。

（教育委員会事務局）

現在は社会福祉士3名、校長OB4名がスクールソーシャルワーカーとして活動している。現在は教育相談センター内に執務室があり、皆で情報共有する機会がある。実際に学校から依頼があった場合は、各学校の事案に応じて派遣する職員を決めている。教員、社会福祉士それぞれに得意分野があるため、それを見極めながら対応している。しかしながら今回提案した拠点型は各中学校区内の事案に対し、スクールソーシャルワーカーが1人で対応していくことになる。そうした時に得意分野に差を抱えたままでの活動では弱さが出るので係長を中心に研修会を設けたり、ケース会議等を開くなどして不安要素を取り除きながら進めたいと考えている。

・ 福應委員

派遣型だとどうしても事後対応になる事が多いので、拠点で直接会って話ができる拠点型に移行することは非常に重要。人材確保という課題もあるが、拠点型移行をぜひ進めていただきたい。

・ 岡田委員

拠点型に移行するには職員が正規・非常勤合計で約20名必要とあるが、各学校の規模やエリアを考慮して正規職員を配置するというような構想はあるか。

（教育委員会事務局）

原則、各中学校区に1人配置だが、学校の規模に応じて調整することを考えている。

・ 岡田委員

常勤の方は学校に生徒がいる日は常におり、校内の様子を見ているということか。

学校の先生以外の違った視点で見守る方がいるのは非常に重要なので、ぜひその方向性で進めていただきたい。

・小出委員

これまで教育委員として 10 年務めた中で、今回の取り組みは一番心に沁みた。問題によってはスクールソーシャルワーカーと教師だけで解決できず、市役所や児童相談所との連携も必要になる。今までこういうところがやり切れていない。長い目で見ると子供たちがしっかり守られることで将来の岡崎を支える者が増えるという見方もできるかもしれない。本来的な対策がもっと小さい段階から行われるべき。この件に関してはともかく始めていただきたい。

・上原委員

他の市町での取組状況と課題を教えてください。

(教育委員会事務局)

各中学校に 1 名という手厚さでやっている自治体は他にない。当然それに伴う人材確保は 1 つの課題である。現段階では社会福祉士もしくは退職校長の医療面、教育面のスペシャリストを融合させて情報共有しながら対応しているが、20 名近くのスクールソーシャルワーカーを雇用するとなると当然若手の方を雇用することも想定される。岡崎の子どもたちのために力を発揮できるようなスクールソーシャルワーカーを育成することも課題と考えている。

・上原委員

ケースごとに異なると思うが、1 つの事案に要する時間と人はどのくらいか。

(教育委員会事務局)

スクールソーシャルワーカー 7 名での総対応件数は 1,000 件を超える。当然人がいればいるだけ対応できるが、スクールソーシャルワーカーの強みは年度をまたいで対応できること。担任の先生が変わっても家庭や子どもの状況を知ったスクールソーシャルワーカーが長い間支援をすることができる。

・市長

委員の先生方からぜひ推進してほしいという温かく力強いお言葉をいただき、市長としては大変心強く、進めていきたい。スクールソーシャルワーカーによる専門性の高い対応で子供たちを支えていく体制が構築できると確信している。

● 議題 2 30 人学級の実施検討について

— 資料 2 に基づき説明 (河合教育部長) —

【質疑・意見等】

・福應委員

学校訪問にお邪魔すると小学校高学年の教室は面的にも人的にも満杯の状況であり、それを考えると30人学級の設置は非常に重要。時間の広がりには子供たちに十分な力を注ぐことができ、空間の広がりには子どもに心の安定を与えるので、ぜひ進めていただきたい。チーム学習については、4人グループなら28人、32人といった想定ができ、3人グループも考えられる。個々の考えを共有しながら高め合っていくことで主体的な学びに繋がることを期待できる。

・上原委員

私は体育を専門にしているが、人数によって子どもの学習時間が増えると考えている。例えばチームでボール運動を行う際、1チームは3～4人が良い。5～6人になると関われない子が出てきてしまう。また、学習効果を上げるには試行する時間が必要。体育であれば動きながら考え、トライ&エラーを繰り返すことで学習の効果が出る。先生が関わる時間だけでなく、学習そのものがしっかりできると考える。

・岡田委員

先生が密に関われるということもあるが、30人で教室を使うことで空間的余裕が生まれ、子どもたちに心理的余裕を与える。それにより互いに考える機会が増え、クラスづくりにも良い影響を与える。教室や教員の確保等難しい問題もあるかと思うが、これを進めていくためには教員や教室をどのくらい増やさなければならないのか、また、どのような課題があるか。

(教育委員会事務局)

その課題の検討を明日の検討会議で行う予定。例えば令和5年度から順次全ての学年で実施していくとすると、教室は増築が8、改修が31必要、教員は令和3年度から10年度までで合計延べ273人必要になる。市独自で採用していくことになるかと思うが、かなりの費用がかかると考えている。

・岡田委員

全てのクラスに対して1人の担任の先生をあてていくとこれだけの人数が必要になるということだと思うが、例えばそれがかなり厳しいという話になった場合、1人1人の子どもを確実にケアする先生は必要だが、それをきっちり30人に対して1人でやらなければいけないのかという点も今後考えていく際の視点として提案したい。

・小出委員

やれるのであればぜひやっていただきたいと思う。あとは人材発掘と単市負担になるのかという大きな問題がある。しかし、これが実現し先程のスクールソーシャルワ

一カーが上手く進めば岡崎の教育のあり方、中身は相当よくなると期待している。岡崎市の子どもたちが立派な成人として育ち社会に貢献できるような人材になりうるための取組だということを手く表現できると、他市に売り込みができるのではないか。

(教育委員会事務局)

フリースクールの取組も含めて検討していきたい。

・小出委員

いい言葉を期待している。GIGA スクールや成績が良くなることも大事だが、そういうところにも注力していることを知ってもらいたい。今は子どもに対する支援が充実しているところにはどんどん新しい家族が流入している。岡崎もそうなればよいと思う。

・市長

小出委員の発言のとおりこれは子ども達だけでなく家庭支援、生活困窮支援等の社会支援、住みやすいまちづくりにもつながるのでぜひ進めていきたい。また上原委員や福應委員からも、30 人と標榜しているが人数は現場感覚を重視して結論を見出していきたい。

● 閉会